山形県

ペット同行避難マニュアル

＜飼い主編＞

令和5年2月

飼い主編

00　人とペットの防災フロー

飼い主編では、災害時、ペットと飼い主がともに安全に避難できるよう、日頃から備えていただきたい対策と災害時の注意点を示しています。災害時に自分自身と大切なペットを守るための準備をしていきましょう。

平時

01　住まいの安全確認 → P5

02　しつけと健康管理 → P5

03　ペットが迷子になったときのために → P7

04　避難用品の準備 → P8

05　事前の情報収集と検討 → P9

災害時

06　安全確認と避難の判断 → P10

07　ペット同行避難 → P11

08　避難生活と共助 → P12

平時

01　住まいの安全確認

　発災時、人もペットもけがをしないよう、家の中に危険な箇所がないか確認し、家具の固定等一般的な防災対策をしましょう。

□家具やハードタイプのキャリーやケージの転倒防止、落下防止

□ガラスの飛散防止

□飼育場所の安全確保

　普段からケージなどの避難場所(隠れ場所)をペットが使えるようにしておきましょう。外で飼養している場合は、塀や窓ガラスの近くを避けましょう。河川の増水や津波の恐れがある地域では、浸水の可能性も考える必要があります。

02　しつけと健康管理

＜しつけ＞

　日頃からしつけができていると、避難所生活でのストレスを軽減したり、トラブルを防いだりすることができます。

□ケージに入ることに慣れている

　いち早く安全に避難し、避難所でも落ち着いて生活できるよう、日頃から慣らしておきましょう。

□決められた場所で排泄ができる

□ほかの人や動物を怖がらない

　ペットの恐怖や不安などストレスの軽減や無駄吠えを予防します。

≪犬の場合≫

・基本的な指示を聞くことができ、飼い主が犬をコントロールできる

・不必要に吠えない

≪猫の場合≫

・室内飼育をする

＜健康管理＞

ペットの不妊去勢と健康管理を行うことで、避難所での問題行動の抑制や感染症の防止につながります。また、ペットの体を清潔に保つことも大切です。

□不妊去勢手術をしている

思わぬ繁殖を防ぎ、問題行動を抑制する効果もあるので、不妊去勢をしておきましょう。

□ワクチン接種と寄生虫の予防、駆除をしている

避難所では多くのペットと同じ場所で過ごすことになります。
感染症予防のため、日頃から行いましょう。

□（犬の場合）狂犬病予防接種をしている

犬は、飼い犬登録と毎年の狂犬病予防接種が義務付けられています。

ケージに慣らしておきましょう！

ケージやキャリーバッグは動物病院に連れていくときだけに使わず、日頃から扉を開けた状態で部屋に置き、ペットがくつろいだり、眠ったりする「安心できる場所」として慣れておくようにします。

避難時の速やかな連れ出しもでき、ケージ内で過ごす時間が長くなる避難生活でもペットのストレス軽減につながります。

03　ペットが迷子になったときのために

　災害時の混乱の中では、ペットとはぐれてしまうこともあります。ペットが迷子になっても、飼い主の元に戻ることができるよう迷子札やマイクロチップ等を装着しましょう。

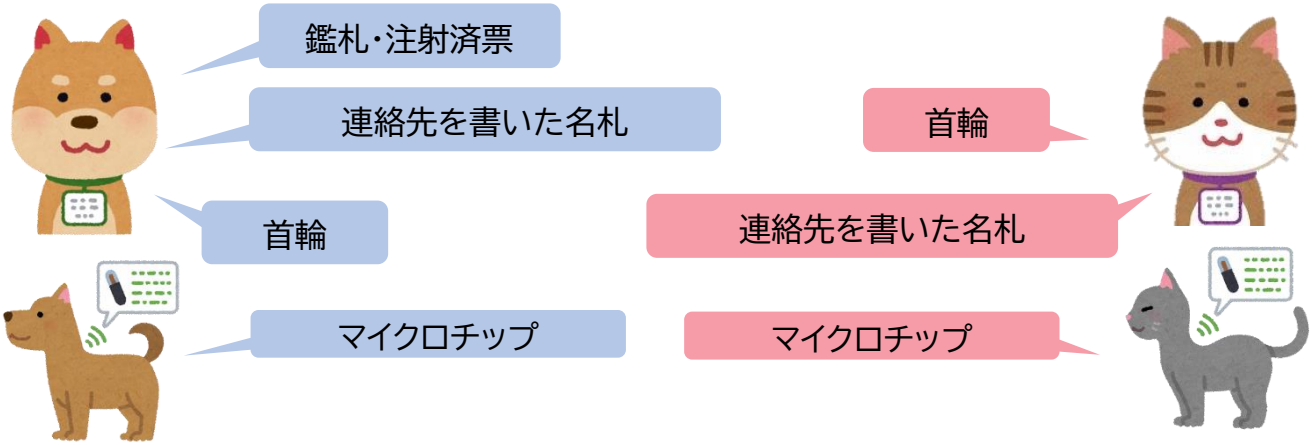
□首輪と連絡先を書いた名札をつけている

□マイクロチップを装着している（首輪が外れても大丈夫！）

　令和4年6月1日から、動物販売業者に犬や猫へのマイクロチップの装着が義務化されました。令和4年6月以前から飼っている犬や猫への装着は努力義務ですが、ペットが迷子になったときのために装着しましょう。

□（犬の場合）鑑札・注射済票をつけている

　飼い犬は狂犬病予防法により鑑札の装着、年一回の狂犬病予防注射をしたことの証明となる注射済票の装着が義務づけられています。



□ペットと一緒に撮った写真を用意しておく
　ペットが迷子になったとき、大きさや特徴がわかり探しやすくなります。

□「探しています」チラシやポスターを作成しておく
　もしもはぐれてしまったときのために、愛犬・愛猫を探していることを周知するためのチラシやポスターを準備し、非常用持出袋に入れておきましょう。

04　避難用品の準備

人に避難用品が必要なように、ペットにも避難用品が必要です。人の避難用品と一緒に準備をして、避難時にすぐ持ち出せる場所に置くとよいでしょう。

優先順位1
健康と命にかかわるもの

□療法食、薬
□ペットフード、水（最低5日分）
□キャリーバッグ/ケージ
□予備の名札付き首輪
□リード（伸びないもの）
□食器
□ペットシーツ
□トイレ用品
（猫の場合、使い慣れた猫砂or使用猫砂の一部）

優先順位 2
情報

□ワクチン接種状況、既往症、投薬中の薬、かかりつけ医などの情報
□飼い主の連絡先とペットに関する飼い主以外の緊急連絡先・預け先などの情報
（参考：別紙５防災手帳例(p27)）

優先順位 3
ペット用品

□タオル、ブラシ
□ウェットタオル、清掃綿
□ビニール袋
□お気に入りのおもちゃなど匂いがついた物
□洗濯ネットなど
（猫の場合、保護や屋外診療で役立つ）
□ガムテープや油性マーカー
（ケージの補修、動物情報の掲示などに使用）

ローリングストック、してみませんか？

普段から少し多めに食材や加工品を買っておき、使ったらその分を新しく買い足すことで、常に一定の食料を備蓄しておく方法をローリングストックといいます。こうすることで、備蓄品の量や食べ方を把握し、鮮度を保つことができます。

★必ず古いものから使う
★使った分をすかさず補充
★ガスボンベとカセットコンロを備える

人用の食料と一緒にペット用のフード等もローリングストックをしておきましょう。

05　事前の情報収集と検討

いざ避難が必要になったときに、安全に迅速に避難するためには事前の情報収集が重要です。また、家族とも共有し、離れているときにも合流できるよう相談しておくとよいでしょう。

□ハザードマップで住んでいるところが危険な場所（水害時の浸水や土砂災害などの発生が想定されている場所）か把握する

□ “避難場所”、ペットの受入れが可能な“避難所”、“ペットと一緒に逃げられる安全な場所” を把握する

「避難場所」とは、災害の危険から命を守るために緊急的に避難する場所のことを指します。例：公園、学校のグラウンド、校舎の2階以上（津波を想定した場合）など
「避難所」とは、災害により自宅へ戻れなくなった人が一時的、又は、一定期間滞在する施設のことを指します。例：学校の体育館、公民館など
　避難所によって、ペットの受入れ状況が異なるので、事前に確認しておきましょう。
　避難所のペットスペースの多くは、飼い主と別で、屋外に設けられていることから、ペットにとってはストレスの多い環境となります。そのため、事前に危険を予想できる場合は、避難所に限らず、安全な地域の親せきや友人の家などにペットと一緒に避難することも検討しましょう。

□避難場所、避難所への安全なルート・迂回路を把握する

□動物病院、ペットホテル、親せきや友人など、一時預かり先を複数探しておきましょう。

ペットと一緒に避難訓練しませんか？

　避難場所・避難所までの道のりをペットと一緒に歩く、またはペットの入ったケージを持って向かうのは意外と大変です。避難の流れを確認しつつ、いつもと違う環境でのペットの様子も見てみましょう。
　実際に避難してみると、必要だと感じたもの、逆に不要だったもの、不安の残ることなどさまざまな発見があるはず。
　また、ペットと一緒にキャンプや車中泊をしてみるなど、レジャー感覚でいつもとは違う環境で過ごす練習をしてみるのもいいでしょう。
　お住まいの自治体でペット同行避難訓練を実施する際は、積極的に参加しましょう。

▲同行避難の訓練の様子（山形市）

災害時

06　安全確保と避難の判断

　発災時にはまず、自分自身の安全を確保してください。ペットはパニックになっている可能性があるため、逃げられないよう注意しながら安全を確保します。その後、避難するべきかどうかを情報を集めながら判断します。

＜地震の場合＞

　自身の身の安全を守る行動をとりましょう。その後、ペットをケージに入れたり、リードをつけたりして安全を確保します。次の揺れが来る前に避難経路を確保し、情報を集めて避難の判断をしましょう。

＜大雨の場合＞

　ハザードマップで自身がいる場所の危険度を確認します。危険な場所の場合、ペットを連れて出られるよう早めに準備をしましょう。

　情報の収集はテレビやラジオ、自治体などのＨＰから正確なものを得るように努めましょう。危険な場所にいる場合、避難指示が出たらためらわず速やかに避難してください。

５段階の警戒レベル、知っていますか？

　災害発生時、避難のタイミングを判断する大きな基準が、国が示している5段階の「警戒レベル」です。災害の状況をすぐに理解するために活用しましょう。

警戒レベル１
：災害への心構えを高める
警戒レベル２
：ハザードマップなどで避難行動を確認
警戒レベル３
：危険な場所から高齢者等は避難
警戒レベル４
：危険な場所から全員避難
警戒レベル５
：命の危険。直ちに身の安全を確保
ペットを連れての避難は時間がかかるため、早めに避難しましょう。

画像：政府広報オンライン

07　ペット同行避難

　ペット同行避難先は、公的な避難所だけに限りません。状況に応じて、飼い主さんが事前に確保しておいた安全な場所（親せき宅や友人宅など）に避難しましょう。

　ペット同行避難をする場合は、首輪が緩んでいないか確かめてから、リードをつけるかハードタイプのキャリーやケージに入れ、避難用品をもって避難場所や避難先に向かいましょう。キャリーやケージの扉が開いて逸走しないよう、扉をガムテープで固定するとよいでしょう。

　避難所では、運営者の指示に従い、ペットを所定の場所に収容しましょう。

＜避難所での想定される流れ＞

①入所受付

飼い主とペットの情報を名簿に記入します。

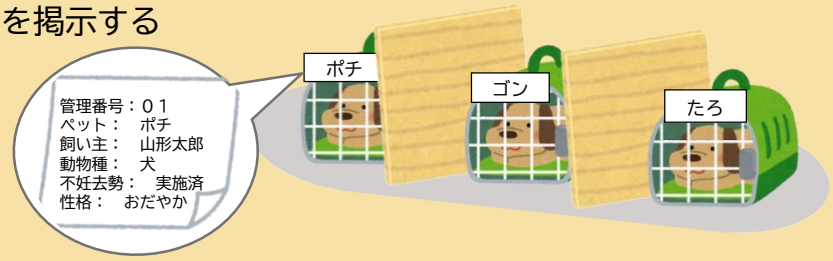
≪記入する情報の例≫

・飼い主の氏名と緊急連絡先
・ペットの種類や特徴(性別、大きさ、毛色など)
・飼い主が分かる方法(マイクロチップ、鑑札等)
・ワクチン接種、不妊去勢処置の有無
・(犬の場合)狂犬病予防法における登録と予防注射の有無

②ペットスペースへ移動、ケージを設置する

他の動物が見えないよう布や段ボールで視界を遮ることで、無駄吠えを予防し、動物のストレスを減らすことができます。

③ケージにペットの情報を掲示する



　避難所の運営者はさまざまな対応に追われることが予想されます。ペットスペースの設営など積極的に協力をお願いします。

08　避難生活と共助

　避難中は各避難所のルールにしたがい、責任をもってペットを飼育しましょう。避難生活は自助が基本ですが、避難所の運営には飼い主同士の助け合いと協力(共助)が必要不可欠です。

飼育スペース基本ルールの例

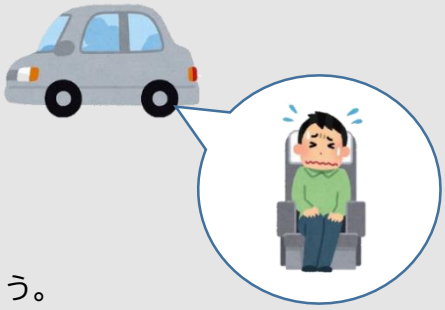
□飼育スペースから出さない
□建物の壁・床を汚さない
□定期的に清掃し、においの発生防止に努める
□散歩も含めて発生したフンはルールにしたがって片づける
□鳴き声防止のため、夜間はペットスペースへの出入を控える

車の中での避難生活

　避難所ではなく、車に避難をするという選択肢もありますが、この場合、自治体が避難者の状況を把握できず、適切なケアがむずかしくなります。やむを得ず車中泊をする場合は、避難所で受付をしたうえで、「エコノミークラス症候群」の予防に留意しましょう。

エコノミークラス症候群とは・・・
　食事や水分を十分に取らない状態で、車などの狭い座席に長時間座っていて足を動かさないと、血行不良が起こり血液が固まりやすくなります。その結果、血の塊が血管の中を流れ、肺に詰まって肺塞栓などを誘発する恐れがあります。

そのため
★ときどき、軽い体操やストレッチ運動を行う
★ふくらはぎを軽くもむ
★こまめに水分を取る
★アルコールを控える
★ゆったりとした服装をする
★眠るときは足を上げる　　などを行いましょう。



　また暑い時期は、車内の気温に注意し、飼い主・ペットともに熱中症にならないよう気をつけましょう。